

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町多度4113-56		
自己評価作成日	平成24年6月5日	評価結果市町提出日	平成24年8月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 7 月 18 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふるさとファミリー・笑顔」を現場でのモットーに、日々の生活を送っている。夏祭りやクリスマス会・餅つき等、行事を様々あり、和気あいあいとしている。沢山のボランティア様や家族様にも御協力頂いている。お風呂は「天然温泉榊原の湯」の大浴場で、午後からゆったりと入浴している。広大な土地と自然豊かな場所で、散歩にも最適である。日曜日にはドライブで四季折々の花を観に出掛けたりする。また火災・地震時避難訓練にも力を入れて実施している。現場から「出来る事からコツコツと」職員全員が意識統一をしっかりとしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふるさとファミリー・笑顔」を理念に掲げ、利用者を支援している。笑顔をもっとに暗い表情の時はお互いが注意し合っている。馴れ馴れしい態度にも気をつけるが、他人行儀にもならない、絶妙な距離を保てる様、「わいわい・がやがや・楽しく」日々接する事で利用者から自然な笑顔と感謝の言葉が聞こえる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふるさとファミリー・笑顔」が現場の理念であり、玄関前にも似顔絵や誕生月表が掲げられている。雰囲気も明るく和やかである。	不安定な利用者に対しても根気よく、コミュニケーションに努力している。実践の場や会議の時等「暗いよ！笑顔！」と職員同士や管理者が声をかけ、利用者が落ち着いて過ごせるよう明るく・穏やかな態度での支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流は「餅つきや夏祭り、普段の散歩時にしている。まだ顔馴染みまではないので今後浸透していきたい。	隣接で系列の事業所と共に餅つきや夏祭り等、地域の方々を招いた行事を盛大に行い、地域と交流している。事業所周りへの散歩や近くの回転寿司等へ外食にも出かけているが、階下で行われる自治会の例会には参加できていない。	自治会の例会に参加し、地域情報の収集や自治会とのパイプの強化に努めたり、運営推進会議に参加してもらう等、これまで以上に地域の一員として相互関係作りを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>	地域運営推進会議の際に説明を行い、徐々に理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接施設と合同で開催の為、日程調整などで課題山積。自治会・地域包括支援センター・民生委員の方に御協力を頂きながら力を入れていきたい。	現在は系列の事業所との合同会議で8月開催の予定はあるが、お互いの事業所の都合、メンバー調整、開催時間等、定例での会議開催には調整が困難である。	内部の調整や外部への働きかけ等、種々調整が必要であろうが、自治会や市にも協力を求め、運営推進会議を定期に開催し、是迄以上に地域に密着し、地域に開かれたグループホーム運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が必要な時に現状報告やお願いをしに出向いている。	市役所事業の事情もあり、久居支所だけでなく、津の本庁まで出向く事も多い。利用者に関しては家族に提供するふるさと便り等を話題に情報提供や相談、市役所からは介護関係情報の提供やアドバイスがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは2階にあるが職員同士話し合い身体拘束の理解はある。言葉拘束についても理解している。	新しく入居すると、不穏な状態の利用者もいるが、身体拘束する事は全く考えていないし、行っていない。職員は懸命に利用者寄り添い、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等、普段の職員同士の話でも議題に上る事もあり共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前利用されていた方が見えて職員それぞれが理解を深め、会議で話し合いを開催して事がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり説明をしている。入居後も面会時を中心に、必要に応じて相談や解決方法等のアドバイスもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター内にご意見箱を設置したり面会時や電話等で要望を聞き会議で議題に出し解決している。	面会時は管理者や職員の方から積極的に声掛けして、意見が出やすい様になっている。家族から、個室のトイレや洗面所は掃除が行き届いているが臭い対策の要望が出て、各個室に消臭剤が置かれる等反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は家族のように、時には意見もあるがその都度話し合い解決している。日々楽しく良い雰囲気である。代表者は現状をもっと理解してほしい。	日常の運営やケアに関しての職員の意見は、話し合いの中で決定し、より良い運営やケアに活かされている。代表者へは管理者から直接申し入れられ、事務的な改善や倉庫を作ってもらおう等運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社側には現場の現状をしっかりと把握してもらいたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や日々の生活の中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に意見交換をしている程度であまり交流機会は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をしっかり傾聴し穏やかに生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心に説明し、不安や疑問にも対応し関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	説明をしっかりとした上で対応している。状況に応じて提携医にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせてはいるが、困難な事も沢山あるのが現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも面会を通して話し合いをしたり、職員が間に入り共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が訪ねて来たり以前居た施設の方と散歩時等に話したりしている。	家族の協力で昔の写真を持ってきてもらい、話題づくりや興味を探る等関係が継続できる様、馴染みの人や場所との関係支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話題を提供し盛り上がる時もあるが、一人の空間も大切と考えており、その時の状況や雰囲気も考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどは連絡ないがあれば管理者が必要に応じて対応(相談・支援)している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話題を変えたり、場を変えたり色々工夫しながら、職員同士常に話し合い対応している。	毎日の生活や支援の反応、言葉、態度からくみ取ったり、職員各々の記録からも思いや意向のヒントを得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からも入居後も話を聞き職員も把握しそれに沿った形で話をする時もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時から入浴前のバイタル測定から就寝後の巡回まで現状把握に努め、場合によっては医師や看護師に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回会議があり、ヒヤリハット・事故報告書・会議記録・受診結果等から3ヶ月毎に作成し家族に説明し納得の上で同意を得ている。	全職員出席の毎月のケースカンファレンスでサマリーやモニタリングが行われ、計画担当者が3ヶ月毎と必要時に計画の見直しをしている。家族には面会時に意見を聞いたり同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3点セット(連絡ノート・受診ノート・介護記録)を最大限に活用し情報の共有を図り、その時々で問題点が出たら緊急性の場合はその日の職員同士で決定している事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が変わる為、その時の対応を重視して常に柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に考慮し日々の生活が少しでも有意義で楽しくなるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医訪問は週1であり殆どの方は利用している。緊急時は管理者が受診等対応している。健康状態を見ながら的確に判断している。定期健診もある。	以前からのかかりつけ医受診は3名あり、基本的には家族が付き添い受診している。提携医の訪問診療は月一回であるが、緊急時や週一回の診察も可能で利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設の看護師に情報を伝え必要に応じて判断を仰いでいる。最終判断は管理者がしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が病院関係者や施設関係者と家族とも連携を取り、安心して治療を受けられるよう関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期寸前まで対応した事は何度かあるが、グループホームとして終末期ケアを唄つて訳ではなく設備もない。が、家族の強い要望により管理者が職員に説明し出来る限りの事はしている。	本人や家族の意向を考え、受け入れ先がないなら力になりたいと思い悩む管理者・職員の気持で支援が行われている。事業所としての方針について看取りは出来ないと考えているがはっきりとは提示されていない。	提携医や系列施設との連携は取れているが、利用者・家族の思いはその時々状況により変化したり、医療機関や施設も受け入れが困難な時がある。利用者・家族・管理者・職員・主治医とも話し合い、事業所としての方針を検討される事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最寄りの消防署から緊急時の機器をお借りして勉強会をしたり管理者が事故対応マニュアルを作成し職員個々に配布し、また現場にもマニュアルが掲示板などに貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署関連の避難訓練も年2回(春・秋)に増え、その他現場独自で色んな状況を想定し、現在は日曜日に避難訓練を実施している。	消防署指導の避難訓練は、系列組織全体で年2回行われている。ふるさと独自でも避難訓練を行い、利用者の避難状況を細かく観察し、夫々の誘導を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあり色々な事を経験をして来ている方に学習させて頂くと言う気持ちを持ちつつも、必要な時は注意もしている。家族と言う気持ちも職員にはあり家族にも話をしている。	聴こえない利用者のトイレ誘導や汚れたりハビリアパンツの始末を他の利用者に気付かれないよう工夫する等、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いは傾聴し、それに沿った形でと考えているが最終的には職員が判断して決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にしている。一人一人の希望になるべく沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人に合った服装や、季節に合った衣類の着用の支援を説明し納得してもらった上で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者委託の為難しい所も多々あるが、その中で出来る事(外食を含めて)は支援している。日曜日には1階(デイサービス)を借りて、広い空間の中で食事を楽しんでいる。	献立と食材は委託で届くが、3食共職員が調理しており、その様子や匂いを感じている。副食の種類は多く、「何時もおいしい」と笑顔で味わっている。盛り付けを手伝う利用者は、「手伝って嬉しい」と持てる力が活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者委託の献立で管理されており栄養のバランスも良い。少し量が多く感じるがしっかり摂取される。定期的に水分補給(コーヒータム)もしている。食事摂取一覧表を活用しいつでも見る事が出来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア支援と毎週日曜日の午後からポリドント洗浄にて口腔内清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にそれぞれトイレが設置してあり安心している。清掃も毎日している。一人一人時間に合わせ定期的(頻繁な時もある)に誘導支援をしている。	年齢を重ねた利用者の排泄の自立は難しいが、個室のトイレという事もあり誘導やプライバシーの保持については支援がやりやすい。オムツの方はいないがリハビリパンツ使用の利用者が多く、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や便秘解消体操も取り入れ楽しくレクリエーション感覚でしている。場合によっては医師に薬の処方をお願いする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は食事と同じく楽しみにされている方が多く、明泉榊原の湯を大浴場に流し入浴している。曜日や時間は設定してある。湯の入れ替えは週に2回で毎日夜中に巡回している。	名湯榊原温泉の湯が階下の大浴場に満たされており、〔週2回入れ替え、夜間循環〕利用者は午後からゆっくり時間をかけて入るのを楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせて気持ち良く睡眠がとれるよう支援している。昼寝も取り入れられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に投薬表一覧表を管理者が作成に個々のカルテやバインダーに入れてありいつでもチェックが出来る体制で症状の変化も必要に応じて医師に相談する体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業(洗濯干し、たたみ)、読書、歌おう会、カルタ、敬老会のビデオ等もあり今年花壇を駐車場裏に作ったので花を観たり草抜きもこれから楽しみながらしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩やドライブに出掛けたりされる。が、以前に比べ状態等考慮し、外出は減ってきている。全員で遠出は厳しい現状であるが、「今出来る事」を話し合い支援している。	外食に対しての外出希望はあり、デイサービスの車を使い市内や松阪まで出掛け楽しんでいる。日常のホーム周辺の森林浴や季節季節の花見等、機会を作り出かけている。受診時に家族と外食したり買い物等出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に管理は職員がしている。必要時は今現在ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話支援は必要があれば考えるが現在はなし。個人宛てに届いた手紙等は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	去年から取り入れた日中の節電対策を今年も継続している。東北地震の風化を防ぐために。皆で作った物や写真はホールの掲示板や壁に貼ったり個人の場合は思い思いに自室に置いてある。ポケットアルバムは家族に好評である。	廊下や居間には季節を楽しんだ写真や絵などが飾られて、面会者や職員との話題作りになっている。廊下には思い思いに坐れる椅子が置かれ、一休みしたり、談笑する等憩える空間がある。日曜日には階下の広いホールで会食やレクリエーションを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間が狭くなかなか広々とくつろげる環境にないのが寂しいが、その中で出来る事を工夫して支援している。日曜日には一階へカラオケをしに行ったりもする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ケースやテレビは個人の物であり昔から使用している物を使っている。ほとんどはシンプルな居室が多くある。	居室には洗面所・トイレがあり、自分で掃除したり職員と一緒にしたりで清潔に保たれている。自宅で使っていた夏布団、衣装ケース、テレビ、家族との写真や遺影等持込、その人らしい部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間が狭く感じるがその中でうまくいくよう雰囲気作りを大切に職員が工夫している。		